

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2376200172
法人名	平成フードサプライ有限会社
事業所名	グループホーム稲武の家
訪問調査日	平成 19 年 7 月 3 日
評価確定日	平成 19 年 7 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム稲武の家		
所在地 (電話番号)	豊田市黒田町字一色310 (電話) 0565-83-3100		
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成19年7月3日	評価確定日	平成19年7月27日

## 【情報提供票より】(平成19年 6月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 15 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 17.7 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨、鉄筋造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	52,000 円 (食材費含む)	
敷金	有( ) 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 200,000 円	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

### (4) 利用者の概要( 6月15日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	5 名	要介護2	10 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	古橋クリニック 北原医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特筆すべきはこのホームの職員の明るさであると思う。職員の利用者への「笑顔」の対応は、利用者から職員への「信頼」につながり、ホーム全体が「信頼」と「協力」で結ばれている事がうかがい知れる。また、利用者の「この場所でこの人達と暮らす安心」を考え、常に利用者の「思い」を優先にした支援を実践しており、にぎやかで楽しい雰囲気の中、利用者の尊厳を守り、「その人らしさ」を重視した介護を実現している。山間部ののどかな環境に恵まれ、自然の懐に抱かれたような自然環境で、四季の風景を楽しみながらの、ゆったり・おおらかな支援はホームのカラーと言えるであろう。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価では、ホーム全体の取り組み課題として、管理者・リーダーに集中する責務をチームとして解決するための方法の検討を提案させていただいた。職員意見の聞き取り・反映、介護技術・方針の周知等、職員全体で取り組みに努め、職員の意識向上につなげている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・ユニットリーダーが中心となり、各ユニットの自己評価を行っている。職員意見も参考にしながら、振り返り評価を実施し、今後の取り組みの課題抽出を行っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進委員会には、包括支援センター職員、地域民生委員、利用者家族などの参加があり、事業所の運営報告・活動報告が滞りなく行われている。その他、検討課題の提起による意見交換も図られており、各方面の意見をホームの困り事等の解決に活かしている。また、家族・外部者からの意見・要望を聴き取り、改善への取組みもしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族来訪も多く、ホームとの良い関係が構築されており、家族が管理者・職員に気軽に話せる機会・雰囲気がある。また、電話連絡も行ってあり、家族からの意見聴取の機会を広げている。聞き取った意見・要望については、即対応に努め、内容を周知する事で運営へ反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩・外出時には挨拶を徹底し、日常的に地域住民との交流に努めている。また、地域行事に参加し、近隣住民との馴染みの関係作りにも努めている。保育園・小学校・老人会等との交流、地域ボランティア受入れ等、今後の検討課題としている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本部理念を踏まえつつ、家庭的な中に利用者一人ひとりを尊重したホーム独自の利用者本人の立場に立ったケアを目指した理念が作られている。		ホームでは、理念を地域交流を踏まえたものとなるように検討を始めており、今後の進捗に期待するところである。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲げると共に、ミーティング・会議などで内容の共有を図っている。また、日々の介護での気付き、職員へのアドバイスなどの折に理念に基く指導を行い、職員もそれをよく理解し、理念を意識した介護を実践している。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りやイベント等に参加している。また、地域ボランティアとの交流が図られている。		すでに地域の幼稚園・小学校の子供とのふれあいを検討し、老人会との交流を図れるような取り組みを進めている。ホーム利用者が地域の一員として暮らす環境作りの一環として、一般家庭の高齢者が地域で生活する事と同様の「普通」な生活環境整備が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から自己評価・外部評価の意義が職員に説明され、職員もよく評価の意義を理解している。前回の外部評価結果での気付きを職員と検討し、ホームにとって必要なものや改善できるものから取り組み、具体的な改善を行なっている。		前年度からの改善の一例として、介護の基本を職員に周知し、ターミナルケアの実践・医療との連携等、ホームでの介護を通じ、職員の介護に対する意識向上を図っている。この取り組みはホームのサービスの質の向上に直接反映していると言える。今後も評価を一つの機会として、継続的な改善努力に期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、包括支援センター職員、地域民生委員、利用者家族などの参加があり、事業所の現状説明のほか検討課題の提起による意見交換も図られている。会議内での意見や要望を踏まえた取組みも行っている。		ホームが利用者のためにやりたい事、そのために困っている事等の提起は、地域でのグループホーム理解にもつながり、地域ぐるみでの取り組みに発展する事が推察できる。今後も利用者が地域の一員として生活する事ができるように、運営推進会議を活用した「利用者本位」のますますの取り組みをお願いするところである。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、豊田市の介護相談員が訪れ、事業所の相談に乗る仕組みとなっている。また、市の主催によるサービス向上連絡会が3ヶ月に一度開かれ、グループホーム管理者の集まりに参加し、意見交換・情報交換の中でサービスの質の向上を考え話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は多く、訪問時には職員が利用者の生活ぶりや現状を伝え、金銭出納についての確認も頂いている。また、請求書に利用者の状況を知らせる手紙を同封し、定期的な報告を行っている。その他、電話連絡での随時の連絡時にも利用者の状態を知らせている。		家族への利用者に関する報告についての問題はないが、ホーム全体の情報提供・報告の意味で、定期的な手紙の一部に職員の移動・退社・入社に関する内容を網羅することが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームは、家族が意見や苦情を言い易い雰囲気作りに努めており、職員に気軽に話せる関係作りが確立されている。また、運営推進委員会にも家族の参加があり、積極的に意見等を述べていただいている。聴き取った内容はホーム会議等で検討し、改善への取り組みにつなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニットの事業所であるが、基本的に職員は各ユニット毎で固定し、馴染みの関係作りを実践している。事情によりユニット間での移動になった場合を考慮して、常日頃から他のユニット職員もかかわりを持ち、「顔つなぎ」に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修、実践者研修、管理者研修などの研修計画が定められ、実行されている。事業所内では管理者による身体ケアの指導も行われている。また、職員の希望によりグループ内の他施設での研修も可能な仕組みが整っており、多くの職員が研修に参加している。		法人に研修規定が定められており、採用時から段階を踏んだ研修が義務付けられている。また、個人の研修受講にも柔軟な対応があり、研修受講に限らず、自己学習・他施設見学等で得た知識についても、レポートを提出することで「研修」と認め、法人から報奨を出すシステムもあり、多くの職員がやりがいを持って取り組んでいる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他グループホームとの交流も盛んであり、また、市職員の参加もある豊田市のサービス向上連絡会への参加も行っている。地域密着を考慮し、地域の施設、病院等との交流にも努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には事業所の見学や体験を利用者が納得するまで行い、他の利用者や職員とのふれあいの機会を作る配慮をしている。また、入居前に利用者の生活環境情報・生活歴を収集し、家族と対応方法などの相談を行い、利用者が馴染みやすいように工夫・配慮をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>管理者を始め、全ての職員が利用者と共に支え合う関係作りに配慮している。食事の味付け、畑仕事の方法、上手な掃除の方法など、利用者から学びながら「笑顔」の介護を実践している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の生活パターン・生活リズムをベースに、日常的に利用者の意向の把握に努めている。どこに行きたいか、何をしたいか、何が食べたいかなどの具体的な声掛けを行い、職員間で都度話し合いを行い、情報を共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者との日々のかかわりの中で、利用者の意向を聴き取り、「気持ち」「思い」の把握を行なっている。また、訪問時に聴き取った家族の意向も踏まえ、モニタリング結果を参考にしながら、ケアカンファレンス・ユニット会議で職員意見を反映させた介護計画を作成している。</p>		<p>介護計画作成会議において家族の参加を促す努力も必要と考える。定期的な見直しのカンファレンスであれば、日程調整等、事前の連絡も可能であると思われるので、まずは介護計画作成の意味・内容同意の意味等を家族にご理解いただくことから始められ、会議参加までつなげていただく事をお願いしたい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の生活の中での変化を職員が見守りながら、自社で作成した認定調査票に従った調査を適宜行い、利用者に変化があれば管理者・ケアマネージャー・ユニットリーダーが判断し、随時に介護計画を見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医院の往診が受けられる体制がある。また、協力医院医師との24時間体制があり、電話連絡・往診等の対応で利用者の安心・安全が保たれる支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院・受診に関しては家族と話し合いを行い、ホーム提携医に限定せず、一人ひとりに合った適切な方法を決めている。基本的には、家族同行の受診となっているが、家族が同行できない場合には職員が代行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者にとって何が一番よいかを、家族や医師を含めて、早期に且つ状態が変化すること検討を行っている。また、常に医師の指示を仰ぎ対応を検討している。管理者・ユニットリーダーミーティング・ユニット会議を通じ、職員にはしっかりと方針を説明し、対応方法等の共有を図っている。		ホームはすでにターミナルケアの経験があり、その経験を職員の介護に対する意識向上にまでつなげている。経験はどんな研修にも勝るものであると思われるので、その経験を活かしたますますの取り組みをお願いし、今後の支援に大いに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者に対してさりげない介助、声かけに努め、プライバシーを損なわないように努めている。介護計画、記録は鍵の掛かる場所に保管し、申し送り等の常に必要な資料は職員それぞれが注意しながら管理している。また、管理者は、ミーティング等でプライバシーを守ることの重要性を職員に伝えている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の利用者ペースの尊重に対する意識は高く、一人ひとりのその日の要望に従ってその日を過ごすように配慮している。ホーム内のおおまかな一日の流れはあるものの、食事時間・入浴時間等、個別対応が可能な限り、利用者毎の対応に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が協力して食事作りを行い、配膳・片付け・食器やテーブル拭きなども利用者の力に応じて一緒に楽しみながら作業を行なっている。食事中は和気藹々と楽しそうであった。訪問調査当日の昼食のおはぎは、利用者の得意料理のひとつのことであった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができるように配慮している。利用者の体調を考慮し、希望に沿って入浴日、時間のタイミングを決めている。また、できる限りの個別対応を実践し、生活習慣・入浴時間・方法に配慮し、入浴が利用者の楽しみになる支援に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事は利用者の楽しみの一つであり、訪問調査時にも、大きな沢山の玉ねぎが収穫されていた。ホーム内には、利用者が描かれた心惹かれる墨絵や習字等の作品が飾られている。その他にも利用者の楽しみとして、ちぎり絵・百人一首・カラオケ・トランプ・折り紙・ボール投げなど、多くの気晴らしのツールを提供している。		現時点での支援を向上・継続する事がホームの目指す利用者の「笑顔」引出しの支援であると考え、入居者の張り合いのある生活は、生き生きとした笑顔と自信につながると思われるので、さらなる支援努力に期待するところである。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れた日には散歩や日光浴を行い、利用者の希望があれば職員が付き添って買い物にも出かけている。また、ホームの行事として運転手付のレンタカーを活用し、ユニットごとに遠方への外出を可能にしている。		家族の参加・協力が可能になれば今以上の支援が可能になると思われるので、外出に当たり、3ユニットの大所帯・外出拒否・希望のばらつき等の問題を家族と共有し、できる限りの協力依頼を提案したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の鍵をかけられることでの弊害をよく理解しており、日中時間帯は玄関の施錠は行っていない。居室に対しては常時施錠は行っていない。その日の利用者一人ひとりの状態を把握して、職員が見守りを行い、外へ出ようとする利用者には職員がさりげなく付き添う配慮をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難マニュアルを整備し、毎年2回の防災・避難訓練を行っている。また、非常食の備蓄も行っている。		災害時ホーム広場への一時避難後、通常の避難場所までの移動方法を消防署、行政、地域の方々を含めての検討が望まれる。運営推進会議等での早急の検討を提案したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者一人ひとりの食事量や水分量を把握し、水分摂取の少ない利用者には声をかけ一定量を摂取するように支援している。栄養摂取に関しては食材の宅配サービス利用でおおよそのカロリー・バランス管理を行い、メニューに対しては肉続き等の偏りが起こらないように工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂、風呂などの共用空間は、職員の適切な配慮・管理で、光、音、空気などでの不快感は全くない。玄関や食堂には季節の花が活けられ、その他、共用空間の飾りつけでも季節を感じることができる。居間には大きなソファ、畳スペースが確保され、ゆったりとした空間で居心地よく過ごせるように配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた家具・布団・生活用品・装飾品など好みのものが持ち込まれている。趣味の道具や材料が置かれていたり、個人の生活しやすい家具の配置となっており、利用者毎の居心地のよさを配慮した居室である。		